

Japanese Laid-Open Utility Model Publication No. 4-36906

Laid-Open Date: March 27, 1992

Japanese Utility Model Application No. 2-77874

Filing Date : July 24, 1990

Inventors: Akira Emura

Akira Soma

Applicant: YACHIYO MICRO SCIENCE KABUSHIKI KAISHA

WATER ABSORBING DEVICE FOR SHAMPOOING

[Claim 1]

A water absorbing device for shampooing having a bristle 2 arranged at rather large intervals, said bristle being covered with a bag-shaped absorbent material 3 made of a non-woven fabric of ultrafine fibers which is produced with no binder.

[Object]

The object of the present invention is to provide a water absorbing device for shampooing which, without hurting the hair or skin, can effectively remove residual water left on the hair.

[Effect of the Invention]

The water absorbing device for shampooing of the present invention is capable of efficiently absorbing residual water of the hair just by making the bag-shaped water absorbing material 3 bring into contact with the hair when combing the hair with the device. Thus, the shampooed hair can be taken care of without damage, more safely than using a hair dryer.

公開実用平成 4-36906

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

平4-36906

⑬ Int. Cl.³

A 45 D 20/00
24/02

識別記号

庁内整理番号

7618-3B
7618-3B

⑭ 公開 平成4年(1992)3月27日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全 頁)

⑮ 考案の名称 洗髪用吸水具

⑯ 実 願 平2-77874

⑰ 出 願 平2(1990)7月24日

⑱ 考 案 者 江 村 章 東京都千代田区神田須田町1-28-2 八千代マイクロサイエンス株式会社内

⑲ 考 案 者 相 馬 明 東京都千代田区神田須田町1-28-2 八千代マイクロサイエンス株式会社内

⑳ 出 願 人 八千代マイクロサイエンス株式会社 東京都千代田区神田須田町1-28-2

㉑ 代 理 人 弁理士 藤 吉 繁

明 細 書

1. 考案の名称

洗 髪 用 吸 水 具

2. 実用新案登録請求の範囲

- (1) 櫛状をなし、比較的大きい間隔で整列せしめられている歯2のそれぞれに、超極細繊維を用いたノーバインダー不織布製の袋状吸水材3がかぶせられていることを特徴とする洗髪用吸水具
- (2) ヘアーブラシ状をなし、基板7上に比較的大きい間隔で複数列植設されている柱状体8のそれぞれに、超極細繊維を用いたノーバインダー不織布製の袋状吸水材3がかぶせられていることを特徴とする洗髪用吸水具

3. 考案の詳細な説明

[産業上の利用分野]

この考案は洗髪用吸水具、詳しくは洗髪後に頭髪に残留している水分を効率よく吸い取ることができる吸水具に関するものである。

〔従来の技術〕

洗髪は入浴時だけではなく、最近では朝にも行われる様になって来ており、洗髪が増加している。

普通、洗髪後には濡れた髪をまずタオルで良くふき取り、その後ドライヤーを用い温風乾燥している。一方最近では洗髪後のふき取り用として吸水性の高いタオルも商品化されている。

〔考案が解決すべき課題〕

しかしながら、ドライヤーによる温風乾燥は髪にとって好ましいものではなく、頻繁に行うと頭髪を傷めることにもなる。

又、ドライヤーの熱風が直接皮膚に当たると皮膚をいため、抜け毛の原因ともなっていた。一方、ふき取り用として市販されている吸水用のタオルは一般のタオルより多少吸水性が高い程度であり、頭髪の水分を完全に取り除くことはできず、結局はドライヤーに頼ることとなっていた。

この考案は、洗髪後の頭髪からの水分の除去に関する上記問題点を解決することを目的とするも

図11

のであり、頭髮や頭皮をいためることなく、頭髮の残留水分を効果的に除去することができる洗髪用吸水具を提供せんとするものである。

〔課題を解決する為の手段〕

1番目の考案は、櫛状をなし、比較的大きい間隔で整列せしめられている歯2のそれぞれに、超極細繊維を用いたノーバインダー不織布製の袋状吸水材3をかぶせて洗髪用吸水具を構成することにより、又、2番目の考案はヘアブラシ状をなし、基板7上に比較的大きい間隔で複数列植設されている柱状体8のそれぞれに、超極細繊維を用いたノーバインダー不織布製の袋状吸水材3をかぶせて洗髪用吸水具を構成することにより、上記課題を解決せんとするものである。

〔作用〕

洗髪後、一旦タオルで水分をよくふき取った後、この吸水具を用いて頭髮を梳く。すると、水分を含んだ頭髮はこの吸水具の袋状吸水材に触れ、水分はこの袋状吸水材に吸い取られ、頭髮はほぼ乾燥状態になる。

使用後は袋状吸水材を押圧し水分をしぼり出し、風通しの良い所で、自然乾燥させたり、あるいはこの袋状吸水材より更に吸水性の高い繊維径1～2 μ m程度の超極細繊維製のノーバインダー不織布片を用意しておき、これでこの洗髪用吸水具を包む様にして水分を吸い取る様にしても良い。

又、使用中に袋状吸水材に付着蓄積した汚れは洗濯により比較的簡単に除去することができる。

〔実施例〕

第1図は1番目の考案の一実施例の側面図、第2図はその縦断面図である。図中1は櫛状をなし、比較的大きい間隔で歯2が整列せしめられている本体であり、該本体1の歯2のそれぞれには超極細繊維を用いたノーバインダー不織布製の袋状吸水材3がかぶせられている。この袋状吸水材3を構成するノーバインダー不織布としては厚さ0.5乃至1mm程度のものを用い、超極細繊維としては繊維径3乃至5 μ m程度のナイロンあるいはポリエステル繊維が好適に使用される。又、こ

特許
第 1 号

の袋状吸水材 3 は第 3 図に示す様に超極細繊維を用いたノーバインダー不織布片 4 を 2 枚用意し、これらを重ね、袋状に縫い合せ、これを裏返せば簡単に作ることができる。

なお、第 2 図中 5 は縫い合せ線、6 は切断線である。

次に、第 4 図に示す 2 番目の考案について説明すると、この 2 番目の考案に係る洗髪用吸水具はヘアーブラシ状の外観を呈しており、基板 7 の上には多数の柱状体 8 が複数列比較的大きな間隔で植設されている。この柱状体 8 は可撓性を有する軟質合成樹脂製のものを用いると頭髪をいためず、使用感も良好な為好ましい。

そして、この柱状体 8 に 1 番目の考案の場合と同様、超極細繊維を用いたノーバインダー不織布製の袋状吸水材 3 がかぶせられている。

[考案の効果]

この考案に係る洗髪用吸水具は上記の通りの構成を有し、髪を梳く様にして袋状吸水材 3 を髪に接触させるだけで頭髪の残留水分を有効に吸い取

特
許
公
報

ることができ、ドライヤーより安全に、頭髮や頭皮をいためることなく洗髪後の髪の手入れを行うことができる。

又、2番目の考案においては袋状吸水材3が複列に配置されており、頭髮が多い場合や吸水すべき水分が多い場合に特に有効である。

以上述べた如く、本件考案に係る洗髪用吸水具は簡単な構造ながら、髪をいためることなく、頭髮の水分を吸い取ることができ、極めて実用的なものである。

4. 図面の簡単な説明

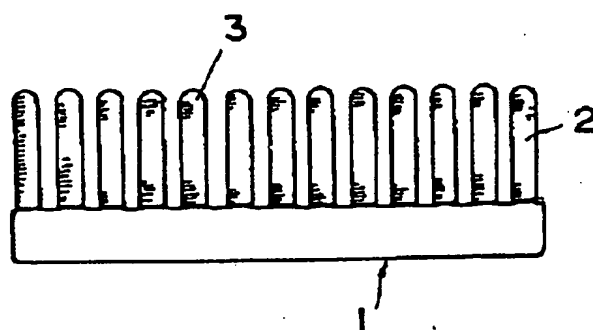
第1図は1番目の考案の一実施例の側面図、第2図はその縦断面図、第3図は袋状吸水材の製造過程の平面図、第4図は2番目の考案の一実施例の斜視図である。

- | | |
|---------------|---------|
| 1 本体 | 5 縫い合せ線 |
| 2 歯 | 6 切断線 |
| 3 袋状吸水材 | 7 基板 |
| 4 ノーバインダー不織布片 | 8 柱状体 |

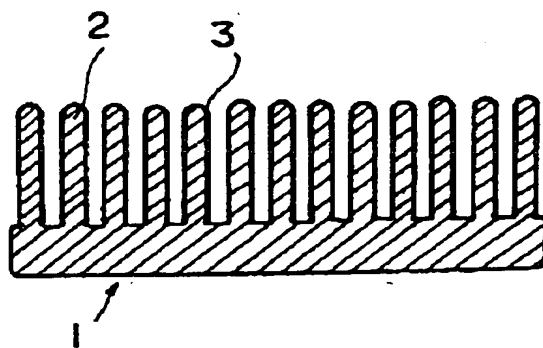
代理人 藤 吉



第 1 図



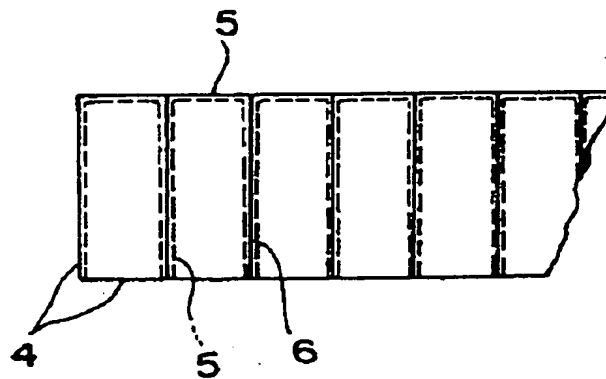
第 2 図



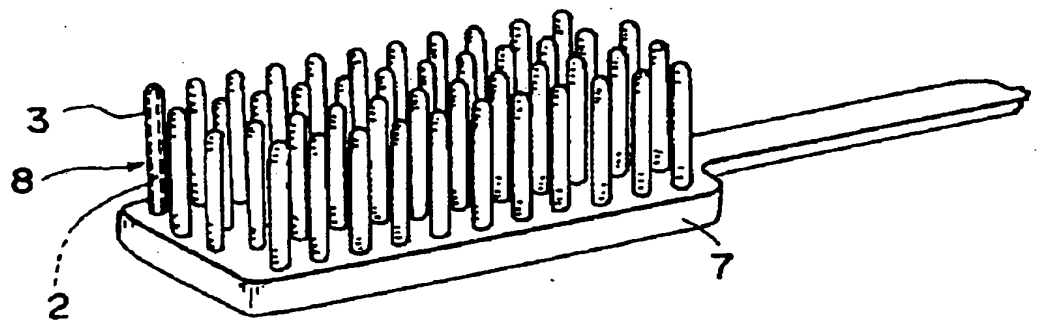
実開 4 - 36906

代理人 藤 吉

第 3 図



第 4 図



実開4-36

代理人 藤 吉

51